

PROGRAM NOTE

2014

近藤譲：秋に

箏と十七絃のための

In Autumn

for Koto and 17-string Koto

私はこれまで、日本の伝統楽器のためにあまり多くは作曲してこなかった。《秋に》は、私にとって初めての箏のための曲ということになる。どのような楽器のために書くかによって、曲が違ったものになるのは当然のことだが、とはいえ、この作曲に当たって、私はそれが「日本の」楽器であることを特に意識したわけではない。つまり、この曲は、私の洋楽器のための作曲と同じ方法論によって書かれている。

この作品は、基本的に、伸び縮みするリズムに揺れながらどこまでも続いていく一本の旋律線である。但し、その一本の旋律線を構成する音のひとつひとつは、常に、「影の音」を伴っている（「影の音」は、「表の音」と同じリズムで動くが、曲の終わり近くでは少しだけずれる）。そして更に、これらの音から形成される一本の旋律線は、それが中断されたときに姿を見せる「影の声」——即ち、「表の声」とは音量と音色を異にする響き——と交差する。つまりこの作品は、「表と影」に関わる二重の対比を通じて、一本の旋律線の内に秘められている多様性を開き見る（啓き聴く）試みである。

上声の箏の音を「表」と聴くのならば、下声の十七絃の音は「影」だが、それらを逆にして聴くこともできるだろう。或いは又、音量の小さい柔らかな音色の部分は、音量の大きい線の「影」に聴こえるだろうが、しかし、それを逆転して捉えることもできる。目立って見えるものは、屢々、その背後に目立たずに在るものの影に過ぎない。

この作品は、沢井一恵さんからの委嘱により、2014年の秋に作曲された。

近藤譲

初演：2015年1月9日 沢井一恵箏リサイタル（東京 王子ホール）

初演者：野坂操壽(箏) 沢井一恵(十七絃)

委嘱：沢井一恵

出版：University of York Music Press (UK)

録音：FOCD-9684

演奏時間：10分